

八百津町清流の国づくり推進計画

1 計画の趣旨

岐阜県では「第30回全国豊かな海づくり大会」「第67回国民体育大会～ぎふ清流国体～」 「第12回全国障がい者スポーツ大会～ぎふ清流大会～」を契機として、環境保全に対する意識の高まりと大会理念を継承・発展させた「清流の国ぎふづくり宣言」が発表されました。「清流の国ぎふづくり」とは、「清流」というのはいのちのメッセージを「守る」「活かす」「伝える」という暮らしの営みを常に一体として、私たち一人ひとりが実現していくこととしています。

本町ではこれらの大会を通じて、全国から訪れた方々に特産品販売や観光PRを行うなどのおもてなしで、地域への愛着を深めることができました。

これを契機として、今後「清流の国づくり」を推進するため、地域の絆や郷土への愛着・誇り・地域スポーツの盛り上がり、地域の魅力づくりや発信などに向けた様々な事業を展開するため「八百津町清流の国づくり推進計画」を策定しました。

2 基本方針

本町は、木曾川の清流と豊かな自然に恵まれ、木曾川の舟運により栄えた歴史と伝統を有し、農業を始め、工業団地の造成による工業の振興や、やおつせんべいなどによる商業で発展してきました。「丸山ダム」、「蘇水峡」、「めい想の森」、「五宝滝」、勇壮なだんじりの「八百津祭」、糸切りからくりの「久田見祭」など特色ある観光名所。明治・大正・昭和の三つの時代を木曾川の流れと共に歩みながら、発電技術の革新と産業発展の歴史を刻み続けた、国の重要文化財となっている「旧八百津発電所資料館」。世界に知られている杉原千畝氏を顕彰した人道の丘公園の「杉原千畝記念館」など、国内外に通用する地域資源が数多くあります。また、木曾川や豊かな森と共に発展してきた伝統産業も多くあります。

近年、「おもてなし」、「いやし」、「自然・伝統文化」、「体験」など観光ニーズも多様化し、観光客も国際化する中、このように恵まれた自然、歴史や伝統文化、産業などの地域資源を活かす観光はこれからのまちづくりや産業振興をけん引する重要な産業です。観光資源の整備、観光ルートの確立、観光PR活動の強化、イベントや祭りの充実、木曾川マリンスポーツの推進など、多面的な取り組みを

行うと共に、岐阜県の観光地や宿泊施設との戦略的な連携による広域観光を推進します。

3 計画期間

本計画期間は平成27年度から平成32年度までの6年間とします。

4 基本目標

基本方針に基づき3つの基本目標を次のとおり定め、計画的な取組事業を展開します。

だれもが訪れたい

だれもがずっと住み続けたい

だれもが住みたくなる

やおつ

5 取組事業

(1) だれもが訪れたい「やおつ」

世界的に知られている杉原千畝氏を顕彰した「杉原千畝記念館」は、国際化した観光客の誘客の中心的な施設となります。この施設を観光ハブ施設として、自然、歴史や伝統文化、産業など地域資源を活かす観光に取り組みます。

また、今後予定されている新丸山ダム建設、国道418号の恵那市への開通、リニア中央新幹線の開通などは、今まで以上に関東を中心とした観光誘客に繋がります。

①世界へ発信する杉原千畝記念館ホームページ制作と連携した広域観光の推進

杉原千畝氏を顕彰した施設は岐阜県の当町のみで、「世界で1つ」を全面的に打ち出せるようなホームページを制作します。一味違った魅力をアピールすることで、今後増加する外国人観光客を岐阜県へ誘致することに繋がります。また、本美濃紙、関の刃物、高山、白川郷など県内の世界に通用する資源と連携した観光PRを行います。

②人道の丘公園環状遊歩道の整備

水源である森を大切にしようとするキリンビール株式会社の社員と町内ボランティアによって整備しているキリン水源の森。この森と人道の丘公園とめい想の森を結ぶ環状遊歩道を整備し、森の恵みを実感できるような連携した施設を目指します。

③人道の丘公園シンボルモニュメント等整備

シンボルモニュメントも建設から20年近く経過し、毎年補修しながら維持しています。しかし今後、補修では維持することが難しくなるため取り壊し、全く新しいモニュメント等を整備します。

④統一感のある観光看板の整備

やおつトンネルや国道418号など新しい道路インフラが整備されることに伴い、アクセス方法も大きく変わることとなります。そのため、初めて訪れる人でも分かりやすく、外国人観光客にも対応できるような、統一感のある観光看板を整備します。

⑤ファミリーセンター駐車場整備

当町の中心地に位置し、観光客が商店街への買い物やハイキングの駐車場として使用していますが、イベントなどの開催時などには駐車場が不足してしまいます。今後、観光バスでの外国人観光客などの増加が見込まれることからファミリーセンター駐車場を整備します。

⑥旧八百津発電所資料館放水口発電施設整備

明治44年に木曾川水系初の発電所として建設された八百津発電所。ヨーロッパ風建築の面影を残したモダンな建物で、水力発電を物語る貴重な資源として国の重要文化財に指定され、現在は旧八百津発電所資料館として親しまれています。

この本館の川側に、大正 6 年に建設された放水口発電所があります。本館発電所の放水口から出る落差 7m の水を再利用して発電していました。貴重な産業遺産で、現存している類例がありません。

こんな貴重な資源を活用するため、見学できるような回廊を整備し、資料館の貴重な資源として活かします。

⑦歴史ある武蔵伝説の大仙寺と善慧寺を巡る小径整備

宮本武蔵が三日三晩その上で座したといわれる座禅石がある大仙寺と、本堂前から大門に至る参道に約六百の石臼をもって飛石がある善慧寺を巡る小径を整備し、歴史資源として活用した新たな観光コースとします。

⑧杉原千畝氏・旧八百津発電所語り部育成事業

世界に通用するような資源がありますが、これらを有効に活用するためには、人から人への繋がりが大変重要になってきます。そのため、語り部を育成できるような事業を展開します。

⑨観光拠点整備事業

観光案内や各種イベントの発信機能を持たせたトイレを建築し、周辺で開催される各種イベントや町内商店街へ訪れる観光客の拠点を整備する。

(2) だれもがずっと住み続けたい「やおつ」

木曾川と豊かな森と共に発展してきた伝統文化のあるまち「やおつ」。伝統文化は住民の郷土に対する愛着や地域の絆を深めるとともに、ふるさと「やおつ」への誇りを高める上で大きな役割を担います。引き継がれてきた伝統文化を守り活かし、時代にあわせて変化させて、ずっと住み続けたいと思えるような「ふるさと」として将来に引き継ぎます。

① 空き店舗を利用した新たな地域活性化拠点の整備

木曾川の舟運の湊として発展してきた伝統ある町並みですが、高齢化で空き店舗が目立つようになりました。この貴重な町並みを活かすと共に「やおつ」に対する愛着と誇りを高めるため、木曾川が一望できる空き店舗を改修した地域活性化の拠点を整備します。

② 公衆トイレやベンチ整備による木曾川環境整備

木曾川と共に発展してきた歴史を再認識できるような憩いの場として、木曾川が一望できる河畔に、憩いの場としてベンチと公衆トイレを整備します。

③指定避難所照明設備整備

町内の指定避難所6カ所に自立式LED投光器を配備し、災害時や停電時に活用できるようにし防災力を強化します。

④オリンピック・パラリンピック関連イベント

東京オリンピック・パラリンピックを2020年に控え、町内でもイベントを催します。町民のスポーツに対する意識を高め、子どもからお年寄りまでスポーツを楽しんでもらうことを目的とします。

⑤リトアニア・イスラエルフェスタ開催

両国と文化や芸術などの交流を図るため講師や団体を招致します。当町は東京オリンピックのホストタウンとしてイスラエルを迎え、関係がより良いものとなるよう継続的にイベントを開催し交流をしていきます。

(3) だれもが住みたくなる「やおつ」

森から海へとつなぐ木曾川の清流と豊かな自然に恵まれ、発展してきた「やおつ」。この清流と豊かな自然を財産として活用したマリンスポーツなどで、健康づくりや体力の向上だけでなく、親睦や交流を深め、「やおつ」に関わっただれもが住みたくなるような豊かな地域社会を育みます。

①みのかも定住自立圏推進事業による「野外フェスティバルからはじまるあたらしい地域コミュニティ事業」に融合したマリンスポーツ体験

「都市圏とのつながり」「新しい公共」を目標にした第2次みのかも定住自立圏共生ビジョン事業として八百津町では大規模な野外フェスティバルを民間の若者たちが実施することとなりました。この事業に特色を持たせ知名度を上げるために木曾川でマリンスポーツ体験も同時開催します。官民一体となって地域活性化を図ります。

②高校生による蘇水峡花火大会時に盆踊り開催事業

蘇水峡花火大会時に以前は盆踊りを実施していました。この盆踊りを地元高校生により復活させ、この事業により地域活性化と「やおつ」との繋がりの強化を図ります。

③定住促進奨励事業

当町の空き家バンク制度に登録された物件の改修および修繕に要した費用の一部を補助します。増加する空き家の問題と移住者の確保の両面において効果のある事業です。